

情報公開文書

課題名：ハルトマンリバーサルにおける腹腔内癒着のリスク因子と臨床的意義

研究期間：臨床研究審査委員会承認日～2026年12月31日

研究開始予定日：臨床研究審査委員会承認日～

1. 研究の対象

2011年4月～2025年3月に当院で大腸穿孔性腹膜炎の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

ハルトマンリバーサルとは主に大腸穿孔(大腸に穴があく)で緊急ハルトマン手術(原因の病変を切除し人工肛門を作成する手術)で作成された人工肛門を閉鎖して腸を再びつなぎ直す手術です。ハルトマンリバーサルは腹膜炎に対する治療後であるため、腹膜炎による炎症の影響でお腹の中の大腸以外の周りの臓器(小腸、子宮など)が癒着(くっつくこと)していることがあります。そのため癒着をはがす際に臓器を傷つけるリスクもあり、手術の難しさや合併症の危険を伴います。今回の研究の目的は緊急ハルトマン手術を受けた患者さんのうち、ハルトマンリバーサルを行った患者さんの特徴とハルトマンリバーサルを行った時のお腹の中の癒着が強かった患者さんの特徴を検討し、当院におけるハルトマンリバーサルの実情と手術を行う時の癒着を想定する因子を明らかにすることです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類 ※試料…血液、組織、細胞、体液、排せつ物などヒトの体の一部

対象となる患者さんの診療録(カルテ)から次の情報を調査します。

- ・患者背景(年齢、性別、併存疾患の有無等)
- ・臨床データ(手術時間、手術出血量等)
- ・転帰(合併症の有無、手術後の入院期間等)

4. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供はありません

5. 研究組織

この研究は当院のみで実施されます。

6. 個人情報の取扱い

試料や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。試料や情報は、当院の研究責任者である川村崇文が責任をもって適切に管理いたします。

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。
その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

浜松医療センター 消化器外科 川村 崇文(研究責任者)

住所：静岡県浜松市中央区富塚町 328

電話：053-453-7111(病院代表)